

新聞記事からみる「読書離れ」に対する実践の展開

藤井 ひとみ

本研究の目的は、「読書離れ」が指摘されるようになってから、これまでの実践の展開をまとめることである。

「読書離れ」は「人々が本を読まなくなっている」という傾向を指して使われる。特に若者の「読書離れ」が進んでいる、ということが一般的に言われている。「活字離れ」、「本離れ」という言葉も同じ文脈で使われるが、「活字離れ」の方が漫画や新聞などより広い意味を含んでおり、「本離れ」という言葉はあまり新聞や雑誌では使われていない。本研究では「読書離れ」、「活字離れ」、「本離れ」を特に区別せずに扱い、「読書離れ」と称する。

これまでの「読書離れ」を扱った研究は「読書離れ」が事実であるかを論じたもの、その原因について論じたもの、「読書離れ」対策の取り組みを紹介したもの、調査をもとに「読書離れ」の進展の状況を論じたものがほとんどであった。それらには個人的な印象や体験に基づくものが多い。一方で、「読書離れ」という問題が指摘されるようになってから、これまで「読書離れ」対策として行われた実践について、長期間にわたってまとめたものは存在しなかった。

研究方法は新聞記事による文献調査である。朝日新聞の聞蔵Ⅱビジュアルと日本経済新聞の日経テレコン 21 で提供される新聞記事データベースを用いて、「読書離れ」に関連する新聞記事を収集した。調査に利用した新聞記事は、朝日新聞は 1482 件、日本経済新聞は 939 件であった。分析は、記事に書かれている出来事の主体と内容について行った。主体の区分は「教育関係」、「出版業界」、「図書館」、「新聞社」、「書店」、「一般個人」、「一般団体」、「国・自治体」、「出版業界以外の企業」、「書評」、「投書」の 11 項目、内容の区分は「司書普及」、「読み聞かせ」、「アニメーション」、「ブックスタート」、「朝読書」、「活動停止」、「読書について」、「新商品」、「発足」、「イベント」、「他商品」、「書店紹介」、「作品・作家紹介」、「実態調査」、「古本市」、「図書館普及」、「新聞」、「NIE」、「読書離れ」、「俳句」、「その他」の 21 項目とした。

本研究の分析の結果、「読書離れ」という問題が取り沙汰されるようになったのは 1970 年ごろではないかと推測できた。しかし、世間の「読書離れ」に関する関心が高まったのは 1990 年代の終わりごろであることが分かった。問題の指摘の直後からすぐに社会的注目を集めたわけではないことが分かる。「読書離れ」に関心を持った業界は出版業界、新聞業界をはじめ決して少なくなかったが、特に学校図書館界は専門誌で特集を組んだり、学校教育の中で読み聞かせなどの対策に取り組んだり強い関心を示してきたことが伺える。本研究は、新聞記事に依拠しながら「読書離れ」問題に関連した各界の様々な実践の展開を長期間にわたってまとめており、「読書離れ」研究の基礎的な資料となるものと考えている。

(指導教員 原 淳之)